

燃料電池自動車（FCV）導入 （次世代自動車普及促進事業）

平成29年度当初予算要求額
1,934千円

事業目的

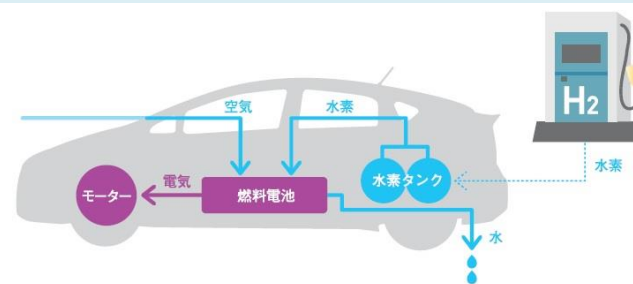
- ・水素エネルギーは利用段階で地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーとして注目されており、将来の有力なエネルギーとして期待されています。環境モデル都市である本市では、臨海部にエネルギー拠点を有するポテンシャルを活かし、産学公連携のもと、新たなエネルギーとして期待される水素エネルギーの利活用促進を通じて地域の発展を図る「堺市水素エネルギー社会推進協議会」を設立し、水素エネルギーの利活用を通じた地域の発展や持続可能なまちづくりを図っております。
- ・その中、身近なところでの水素の利活用促進として、公用車に環境性能が優れた燃料電池自動車（FCV）を率先して導入し、市民・事業者の皆様への普及啓発等に活用することで、水素エネルギー社会の早期実現をめざします。

事業概要

- ・燃料電池自動車（FCV）1台を公用車として導入し、次世代エネルギー「水素」の普及啓発に活用します。

■燃料電池自動車（FCV）の特徴

- 燃料の水素で発電した電気でモーターを回転させ走行します。
- 走行時、水のみが排出され、二酸化炭素（CO₂）を排出しません。
- エンジンに比べ、モーターは走行時に騒音を生み出しにくいので、静かに走行することができます。



効果

- ・次世代自動車の認知度の向上
- ・次世代自動車の普及